

都市再生整備計画 事後評価シート
木葉駅周辺地区

令和2年2月

熊本県玉東町

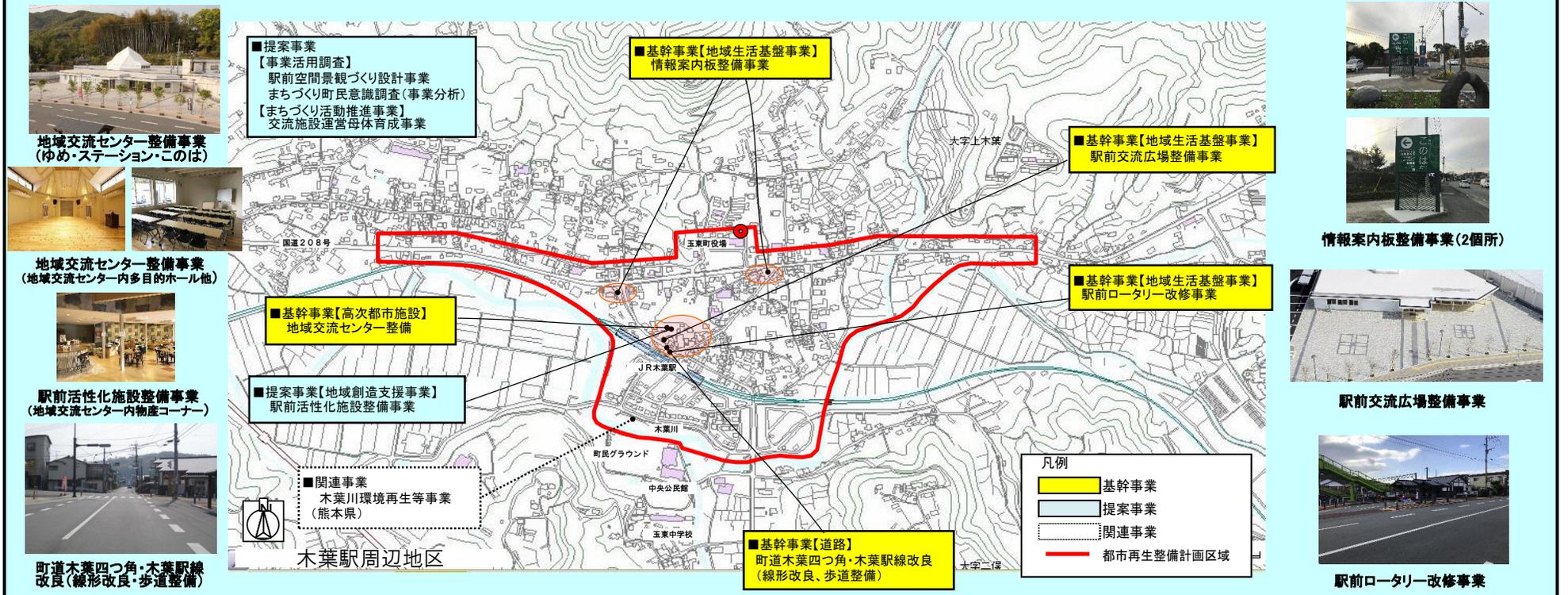
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県		市町村名	玉東町		地区名	木葉駅周辺地区			面積	420ha		
交付期間	平成25年度～平成30年度		事後評価実施時期	令和元年度		交付対象事業費	497百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業(町道木葉四つ角・木葉駅線改修事業)、地域生活基盤施設(駅前交流広場整備事業、駅前ロータリー改修事業、情報板整備事業)、高次都市施設(地域交流センター)										
		提案事業	地域創造支援事業(駅前活性化施設整備事業) 事業活用調査(駅前空間景観づくり事業、まちづくり町民意識調査(事業効果分析))、まちづくり活動推進事業(交流施設運営母体育成事業)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし		削除/追加の理由			-				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		提案事業	なし		-			-				-	
	新たに追加した事業	基幹事業	なし		-			-				-	
提案事業		なし		-			-				-		
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		地域交流センター(ゆめ・ステーション・このは)の用地取得の見直しにより、同センターの配置及び規模の見直し等、設計に時間を要し、交付期間内での同センター建設が困難となったため、期間を延伸したが、これによる指標、数値目標への影響なし。							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	町民満足度	%	10.0	H24年	42.0	H30年	-	53.0	○	あり	地域交流センター(ゆめ・ステーション・このは)、木葉駅前道路改良、及び交流広場の整備等の効果により、駅前環境に対する満足度が向上し、町民や観光客が集い、賑わいのある駅前環境の創出に寄与したと考えられ、目標値を達成することができた。	-
	指標2	交流イベント	回数/年	3	H24年	6	H30年	-	6	○	あり	木葉駅周辺整備の取り組みの中で、「駅を中心としたまちづくり」の重要性を官民で意識しなおした結果、JRとタイアップしたイベントの実施や、町の資源である西南戦争遺跡群に関するイベントの創設等に成功し、目標値を達成することができた。	-
なし													
指標3	団体育成	団体	0	H24年	1	H30年	-	1	○	あり	木葉駅周辺整備の取り組みの中で、「駅を中心としたまちづくり」の重要性を官民で意識しなおした結果、まちづくり会社である「一般社団法人ぶらっとぎょうとう」の設立に成功し、目標を達成することができた。法人設立後も特産品開発等で成果を上げることができている。	-	
													なし
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の数値指標4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 地元関係者(町内商工業者等により組織されている商工会や農協及び農業者団体)によるまちづくりに関する協議や取り組みを経た結果、「一般社団法人ぶらっとぎょうとう」が誕生し、現在は当該法人による地域資源や農業資源、歴史資源を活かしたまちづくりの活動がなされ、住民間の交流もなされている。 木葉駅前の開発基本構想に係る町民ワークショップを実施し、そこで得られた意見を踏まえた計画変更と事業実施を行ったこともあり、町民の駅前開発に対する理解や満足度が向上している。 町道木葉四つ角・木葉駅線改修事業を行った結果、以前に比べて安全性が増し、駅前全体が明るくなったという意見が多数あった。 駅前のロータリーが整備され、木葉駅の送迎、下車がとてスムーズになり、駅の利便性が向上したという意見が多数あった。 駅前の歩道整備が行われたこともあり、小学生の通学路が変更され通学時間の短縮につながった。 												
5)実施過程の評価	実施内容												
	モニタリング	-											
	住民参加プロセス	木葉駅前の開発構想に係る町民ワークショップ											
5)実施過程の評価	実施状況												
	モニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
	住民参加プロセス	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
5)実施過程の評価	今後の対応方針等												
	モニタリング	-											
	住民参加プロセス	● 今後も町民の意見を聞いて、木葉駅前の魅力向上を図る。											
5)実施過程の評価	持続的なまちづくり体制の構築												
	持続的なまちづくり体制の構築	地元関係者(町内商工業者等により組織されている商工会)と玉東町の連携による「一般社団法人ぶらっとぎょうとう」の構築											
	持続的なまちづくり体制の構築	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
持続的なまちづくり体制の構築	● 一般社団法人「ぶらっとぎょうとう」と玉東町が連携して、玉東町の地域と経済の活性化を図る。												

様式2-2 地区の概要

木葉駅周辺地区(熊本県玉東町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】 「ホームタウン玉東」の顔となる、静かな中にも人が集まるまちづくりの拠点整備を図る。 【目標1】 町民や観光客が集い、憩うための拠点となる施設を整備し、賑わいのある駅前環境を創出する。 【目標2】 町の玄関口として、町民が誇りと愛着を持つことができ、訪れる方をもてなすにふさわしい駅前環境を整備する。 【目標3】 町民が主役となり、町の観光資源や産品等のPR等を行う体制の構築を図る。	町民満足度	単位: %	10.0	H24	42.0	H30	53.0	H30
	交流イベント	単位: 回数/年	3	H24	6	H30	6	H30
	団体育成	単位: 団体	0	H24	1	H30	1	H30



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流センターと駅前活性化施設(物産コーナー)が一体となった「ゆめ・ステーション・このは」を整備したことにより、町の情報発信、交流促進、住民の生活利便性の向上が図られ、町民の駅前環境に対する満足度が向上した。 町道木葉四つ角・木葉駅線改良や駅前ロータリー改修事業により、歩行者の安全性や自動車ドライバーの視認性が確保された。 地域交流センターと駅前活性化施設(物産コーナー)が一体となった「ゆめ・ステーション・このは」を整備したことにより、町の特産品や観光名所のPR等が促された。 「一般社団法人ぶらっとぎょくとう」の設立により、商工会をはじめとした地域団体の体制が構築され、それを契機に西南戦争当時の人物が現世に生まれ変わったという設定のリアルキャラグループ「勝手に宣伝隊」の活動(露出)が県内外で多数なされるようになり、町の観光資源や産品等の認知度が向上した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流センターと駅前活性化施設が一体となった「ゆめ・ステーション・このは」で取り扱う産品の充実を図る。特に農産物については、町内出荷者の確保に努め、地産地消の推進、高齢者の生きがいづくりにも資する取り組みを展開する。 駅前広場を活用し、継続的にイベントを企画、実施する。 歩行者や自転車利用者、自動車利用者への交通安全の啓蒙。 地域交流センター(多目的ホール、研修室等)を活用し、継続的にイベントを企画、実施する。 フットパス利用希望者拡大により、西南戦争遺跡群の認知度の向上を図る。 農産物の品ぞろえが不十分との声があり、施設の利活用を推進するうえでも問題があるため、町内農産物生産者の困り込みに資する取り組みを行う。 県道は狭路で歩道もなく危険であるため、改良がなされるよう県に働きかけを行っていく。